

# 事務局だより

大学 ICT 推進協議会の機関誌 AXIES Trajectory Vol. 3 をお届けします。昨年は EXPO 2025 大阪・関西万博が開かれました。このことにちなんで Vol. 3 ではテーマ事業プロデューサーを務められた落合陽一先生にご寄稿頂きました。この事務局だよりには AXIES Trajectory の創刊から、広報委員長としてご尽力いただき、EXPO 2025 に関連して落合先生のご寄稿をお誘い頂くとともに、ご自身もボランティアとして EXPO に参画された大阪大学の猪俣敦夫先生に万博への熱い想いを綴っていただきました。

(AXIES事務局 広報誌担当 仲田)

1970年に開催された日本万国博覧会EXPO70と言え、大阪吹田市にある万博記念公園のシンボル「太陽の塔」を思い出される方もいらっしゃるのではないだろうか。その55年後に開催されたEXPO2025(2025年日本国際博覧会：大阪・関西万博)が2025年10月13日に閉幕されたことは記憶にまだ新しい。ところで茨城県つくば市で1985年に開催された国際科学技術博覧会つくば万博のことはご存知だろうか。EXPO70は私が生まれる以前に開催されたこともあり当然何も知らないのだが、つくば万博は小学生の頃よく親に連れて行ってもらったこともあり、すでに40年ほど時間は経っているにも関わらず常磐線の万博中央駅を降り立つと同時に、見たこともないパビリオンがずらっと並んでいた光景をはっきり覚えている。そう私がコンピュータの世界に入るきっかけを作ったのはこのつくば万博であったと言うのは間違いない、そうしたこともあり開催前からEXPO2025への思いが大きかったのである。

コロナ禍に入る少し前に幸運なことに万博におけるサイバーセキュリティの裏方支援に携わることになったのだが、もっと万博を盛り上げたいという気持ちが強くなり実は会場ボランティアへの応募もしていた。少し恥ずかしいような気もするが応募書類にはかなり熱い思いを書いて応募した結果、正式に選考に選ばれたのである。この万博ボランティア、意外と知られていないのだが、来場される方々へのサポートだけでなく医療、迷子、リサイクル分別、等々様々な役割があり、その開催の半年ぐらい前から様々な研修も行われ、相手の目線に合わせた会話の仕方など万博を盛り上げていこうという、まさに万博そのものに対する機運醸成の場でもあった。自分で言うのもなんだが、おそらく大学職員としてボランティアに参加したのは私だけではなかったかと思う。業務の日々ごとに初めて会う人同士でグループが作られるのであるが、時には大学生、時には年配の方々と幅広い交流、毎回ホワイトボードにイラストを描いて来場された方々の思い出づくりに精一杯走り回っていたこと、ここではもう多く語ることはしないが、閉幕日である10月13日は入場ゲートで整列してお客様をお迎えし感謝の言葉をたくさん頂き涙が溢れたこと、今となっては懐かしい思い出である。Trajectoryでは今回しかできない内容としてEXPO2025のテーマ事業プロデューサーの一人である落合陽一先生に執筆をお願いすることができた。先生には快くお引き受けいただき深く感謝を申し上げたい。

(AXIES理事 広報委員長 猪俣 敦夫)



ボランティア活動写真 猪俣 先生(一番右)



インドネシアパビリオンで利用されていた案内板を  
大学研究室にてリユース(大阪大学 D3センター)